

8042

(資)瀬戸本業窯

SETO HONGYOGAMA

事業所名	(資)瀬戸本業窯	FAX番号	0561-84-6366
代表者名	水野 半次郎	Eメール	hanjiro@seto-hongyo.jp
所在地	〒489-0847 瀬戸市東町1-6	ホームページ	http://www.seto-hongyo.jp
連絡先	0561-84-7123	部会名	陶芸部会

江戸後期の創業で、初代の水野半次郎を襲名してきて、当代が7代目にあたり今も現役です。創業以来、職人の集団で水瓶、すり鉢、こね鉢、片口、器を作ってきた窯元です。

現在の当窯は、作家作品を作っている自覚はなく、デザインや見た目にとられる商品ではなく、丈夫に使い、どの時代の人が見ても良いねと言われるような器づくりを心掛けています。

これは、民藝の生活工芸品の美的価値への認識や評価に喚起した活動の「民藝運動」が、やきものの分野での活動が活発で、柳宗悦らによって全国各地の窯場を調査し、振興を図り、各窯場が持つ伝統的技術をやきもの製産に活用しました。

六代目半次郎は、柳の工芸美論に感銘し、民藝の美への傾倒と理解を製作の基盤とする数少ない作家でした。

当窯は、土も釉も地元にある原料を使い、その土地の人々の日常の暮らしの必要に応じて作るという、やきものの本来の姿を守り続けています。土は、はね土を原料とした本業土を使い、年間で1トン消費するマツ灰は、自前で調達し、1年分の灰を仕込み、翌年にはこの灰をベースに釉を調合し、日常の器である灰釉、黄瀬戸、織部、三彩などを作ります。

今でも分業制を守り続け、ひとつの行程を一人の職人が行うことで、その腕を日々磨き続けています。

やきものは、使われなければ意味がない。当窯の器は、日常の食器として、毎日の使用に耐える堅牢さを備え、手にしっかりと馴染む茶碗、料理を美しく見せる大鉢など、いつの時代にも変わらない使い味を感じていただきたいと願っています。

家族構成の変化とともに生活環境も変わり、そういった時代の変化に追従し、昔から続く思いを守りながら、新しい時代に必要なものを生み出していきます。

お取り引きは、よりエンドユーザー様に近いところへ販売しています。最近、服と食器とホーロー鍋でトータルに生活を提案する流れが来ており、当窯も参加しています。



三彩 大鉢



三彩 入子片口



三彩 紅鉢

黄瀬戸 紅鉢
三彩 スープ鉢

緑釉 牡丹紋皿

黄瀬戸 石皿



三彩 水玉皿

三彩皿

和食器

和食器

ノベルティ

ノベルティ

用品

用品

インテリア

インテリア

用品

用品

インテリア

インテリア

用品

用品

インテリア

インテリア

花器

花器

神仏器

神仏器

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

植木鉢

陶芸用品

下絵加工
上絵付及び

その他

その他

その他

その他

その他

灰釉

鉛釉

黄瀬戸釉

天目釉

柿釉

織部釉

辰砂釉

志野釉

古瀬戸釉

鉄釉

染付

上絵付

その他